

大阪市の主婦、ニックネーム・はじめさんは「奈良は自然が多くて好きであります。自然を楽しみたいと思って来ています。たくさん的人に、奈良に来てほしいです」と話していました。

【村上智子】



## 保存学って何?!

レプリカ作りを体験する

去る十一月十日、奈良大学で文化財保護の研究をしている西山要一教授（五十六）に話をききました。

西山教授は、文化財を残したり、守りたてして、未来に伝えていく仕事をしています。両親は大阪にある仁徳天皇陵という大きな古墳の近くで生まれ、子どもの頃から古墳の話をたくさん聞いて育ち、興味を持ったのがきっかけで、「この仕事を始めたといいます。

「仕事では、奈良以外に、東京や京都、大阪、三重によく行きます。大きな文化財は、大学に持ってきて調べることができないし、貴重だから持つてくることができないものもあるので、必要な道具を持って移動することもありました。」と話しました。

西山教授が、「これまで一番おもしろいと感じた発見は、埼玉県にある稻荷山古墳（いなりやま）から見つかった鉄剣のこと」。この剣に文字が書かれている事が分かったのは、「百年に一度の発見」というくらい、すじい事でした。

鉄に文字がほってある様子を、難しい言葉で「金象嵌（きんこうがん）」といいます。レントゲン写真をとると、文字がほってあるかひつかわたります。もしこれに文字がほってあることがわきます。そうすると、文字が見えるようになります。人の名前だけでなく、当時の社会の様子も書いてあります。

「楽しい時は、新しい発見がないか探すときと、レプリカを作るとき」と



大発見の感動を楽しそうに語る西山教授

平成18年1月21日、  
ならまちで見かけたラジオ放送局の  
「ならどつとFM」でアナウンサーをしている  
大上薰さんにお話を聞きました。



◆どんなお仕事をしていますか?

◆ならどつとFMのアナウンサーをしています。

ニュース番組の「ニュース784」を、隔週で放送しています。

◆仕事を始めたのはなぜですか? 仕事で大変なことはどんなことですか?

◆奈良に住む人たちに、いろいろなことを伝えたかったからです。大変なのは、取材で正確な情報を集めることですね。

◆仕事をしていてうれしいとき、悲しいときはどんなときですか?

◆「うれしいのは、リスナー（放送を聞いてくれる人）がわざわざ放送局に来てくれるときや、面白い情報を教えてもらったり、番組に興味を持つてくれるときです。悲しいのは、放送をしていて、うまく表現ができないときや、リスナーに話の内容がうまく伝わらないときです。

◆これから夢を教えてください

◆地元・奈良に密着した情報をたくさん伝えたいと思います。

◆具体的にどんなことを伝えたいですか?

◆奈良のイベントを伝えたいです。それにテレビに出ないような、小さなニュースもたくさん伝えたいです。

◆ありがとうございました。



【渡辺彩乃】

西山教授は話します。一方、「バラバラになつた文化財を見るとときはとても悲しい」と嘆息そうな顔を浮かべます。「特に、だれにも知られないまま、バラバラになつた物をみたときは悲しいです」と話してくれました。

西山教授の夢は、自分と同じ仕事をしてくれる人が増えることや、みんな

に文化財の大切さをわかつてもわかることです。「これからも日本や外国の壊れてしまった文化財を直していくたまです。日本の技術が、世界中の文化財修理を支えているんです」と力強く話してくれました。

【杉山英】